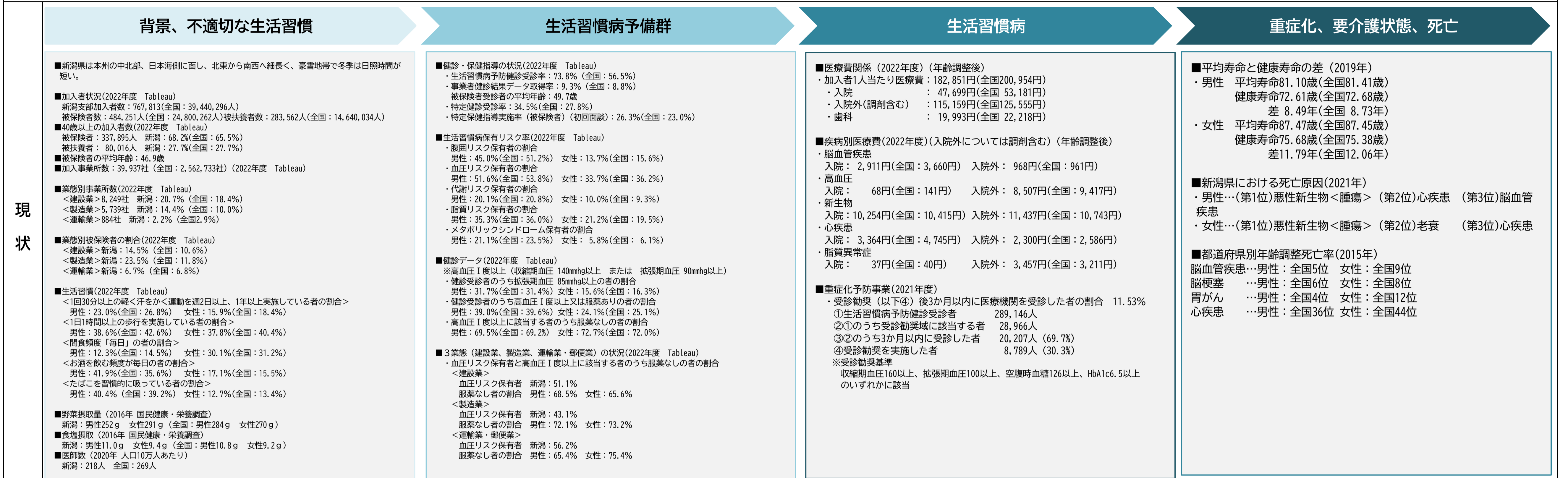


6年後に達成する目標
(健康課題を踏まえた検査値の改善等の目標)

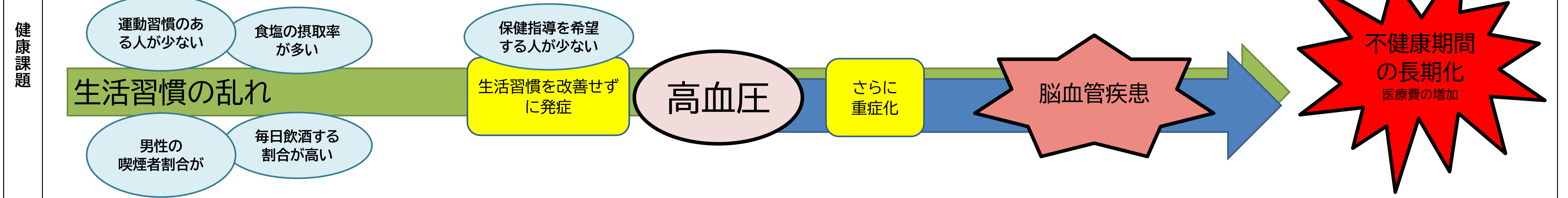
35～64歳の被保険者の平均収縮期血圧を4mmHg減少させる
(R4年度 122.35mmHg → R11年度 118.35mmHg)

健康課題の抽出

● 情報系システムの定型レポート、Zスコア、支部別スコアリングレポート等の医療・健診データから支部の特徴や健康課題を確認し、戦略的保険者機能強化アクションプラン、事業計画、特定健康診査等実施計画のほか、都道府県健康増進計画や都道府県医療費適正化計画等との調和を図りつつ、対策を進めるべき健康課題を抽出する。



1. 脳血管疾患による年齢調整死亡率は、男性第5位・女性9位(2015年)で上位に位置している。脳血管疾患は命に係わる重篤な疾病であり、幸いにして存命しても言語障害や身体麻痺等の後遺症により就業や日常生活に大きな影響を与える。(要介護となる主な原因は脳血管疾患)
2. 脳血管疾患の発症原因である動脈硬化は、高血圧が一番の促進因子である。
3. 健診受診者のうち血圧リスク保有者は、全国平均を下回るものの男性では2人に1人(51.6%)女性では3人に1人(33.7%)と、他リスクに比べ、保有割合が最も高い。
4. 支部加入者の生活習慣の課題である「塩分の多い食事」「喫煙」「多量飲酒」「運動不足」は高血圧症を引き起こし、さらには脳血管疾患の発症の原因となる。つまり、生活習慣改善による高血圧症の発症予防や適正な治療継続による重症化予防を図ることが脳血管疾患の発症を防ぐことにつながる



対策を進めるべき重大な疾患(10年以上経過後に達するゴール)

脳血管疾患の発症を防ぐ(40歳以上の加入者 レセプト件数/加入者数)
ICD-10コードの主病名→「I60<も膜下出血・I61脳内出血・I62その他の非外傷性頭蓋内出血・I63脳梗塞・I64脳卒中脳出血又は脳梗塞と明示されないもの・I65脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの・I66脳動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの・I67その他の脳血管疾患」のレセプト割合を減少させる。